

最優秀賞

立教大学コミュニティ福祉学部
2007原田ゼミ (A)

『観光客を一市民に～登別へ 帰ろうプロジェクト～』



登別は温泉観光都市として知られています。なぜなら現在の集客方法は登別温泉を主体としたもので、多くの団体客が来ているからです。

しかし、それでは観光客が旅館に

しかとどまらず、登別の魅力を知らずに、本当の登別に触れることなく帰ってしまいます。

こうした傾向は全国各地の温泉地に見られるため、それを改善する新たな集客スタイルを提案します。

それは、『住民、観光客、行政』のパートナーシップの形です。最も大切なのは住民の主体性です。なぜなら、登別の良さを知ってるのは住民自身だからです。

わたしたちは、このプロジェクトに参加してくれる観光客を『のぼりベアン』と呼びます。観光客という言葉を使うともてなされて当然という意識を持ってもらうため、このプロジェクトにはそぐわないと思うからです。『のぼりベアン』には、住民と一緒に登別を体感してもらいたいのです。

登別温泉に来たお客様にも地域に密着した事業やイベントに参加していただき、その体験を重ねることによって受け入れ側の活動に引き込みたいと思います。おもてなしを受けるお客様が参加型の体験を重ねることで、いつのまにか受け入れ側の立場になっていることが最大の狙いです。

その結果、『のぼりベアン』にはお世話になった地域に貢献しようとする意識が芽生える可能性があります。

つまり、登別に関心を持った市民以外の方が、登別を活気のあるまちにしようとするきっかけにするものです。

このプロジェクトでは、住民には『のぼりベアン』との触れあいによって、地域のことを真剣に考える当事者意識が生まれることを、住民と『のぼりベアン』には、自分が共にこの地域を支えているという意識を持つことを期待します。

そして、人と人とのつながりの温かさや体験できることの面白さから、『のぼりベアン』が長期滞在や登別を居住の地に選ぶ結果になれば幸いです。



▲商店街の視察



優秀賞

日本大学法学部 外山ゼミナール
『登別プラタナス計画』



プラタナスとは、登別市の木です。語源はギリシャ語で『広い、広がり』という意味です。

『登別らしさ』とは一体何か。福祉政策が充実している、公共施設が

そろっている、観光資源が豊富であるということなどが挙げられます。このことから登別市はとても魅力ある都市だと思いました。そして、この魅力ある都市というのが『登別らしさ』と考えました。

登別は、これまで温泉というイメージのみに頼りすぎていたと思いますが、ほかのイメージも模索する必要があります。また、登別の魅力を日本国民が理解していないと考えました。このことから登別という1本の木の枝がまだ国内に伸びきっていないと考えました。

したがって、現在、国際化と言われてますが、あえて道内・道外、日本国中に、また多世代に登別の魅力を発信していこうと考えました。

その手法は、イベントと登別検定（ご当地検定）の

実施です。

まず、イベントの1つ目ですが、『プラタナスマラソン』の開催。これはみんなが楽しみながら参加することができる非競争性のもので、地獄谷や倶多楽湖などの観光名所をコースとするのが特徴です。そして、いわゆる給水スポットでは、特産物の飲食を可能にし、ゴールでは走りながら試食して気に入ったものを買うことができ、参加者には1日温泉フリーパス券を配布することを考えました。

2つ目は、『登別プラタナス駅伝』の開催。これは先程のマラソンと違って競争性の大会です。登別市をはじめ、西胆振地域をコースとすることで全国にアピールすることができます。

次に、登別検定ですが、特徴は初級、中級、上級の3段階、問題数50題の択一試験、そして検定（上級）合格者のうち、定住希望者には安価な住宅を供給するなどの特典を付けることを考えました。



これらの効果としては、道外の観光客や宿泊客が増える、登別検定定住者は住民とも共生できるなどが考えられ、周遊地だった登別市が滞在地・定住地になると思います。

※グループ提言は最優秀賞、優秀賞、登別市長賞、提言の発表順に基づいて紹介しています。